

ちょっと気になるデータ

離職した失業者

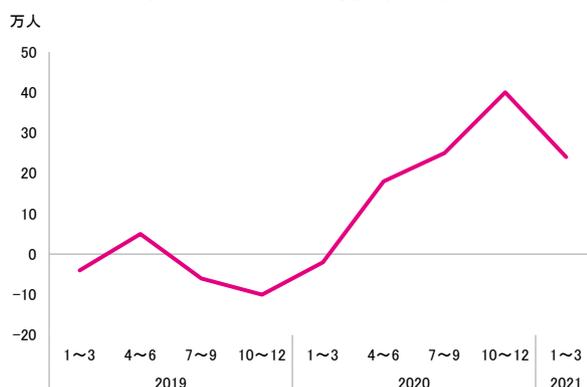
— 労働力調査(詳細集計)結果から —

2021年5月14日に総務省統計局から「労働力調査(詳細集計)」の2021年1～3月期平均の結果が公表された。その中から離職した失業者の結果を紹介する。

失業者^{注1}は214万人で、前年同期と比べて31万人の増加となっている。失業者のうち、離職した失業者^{注2}は143万人で、前年同期と比べて24万人の増加となっている。離職した失業者の前年同期増減の推移を2019年以降についてみると、2019年7～9月期から2020年1～3月期には減少だったあと、2020年4～6月期以降は増加に転じて推移し、2020年10～12月期には40万人増となっている。

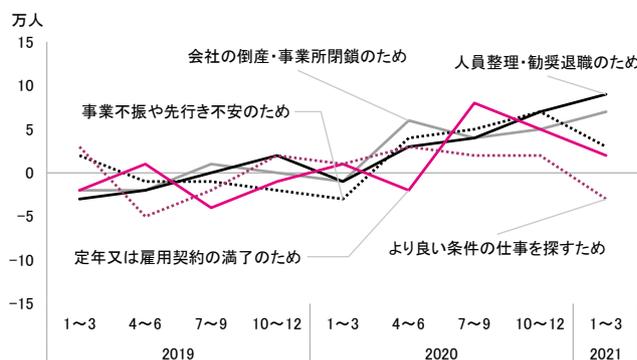
離職した失業者143万人を前職の離職理由別に

離職した失業者(対前年同期増減)

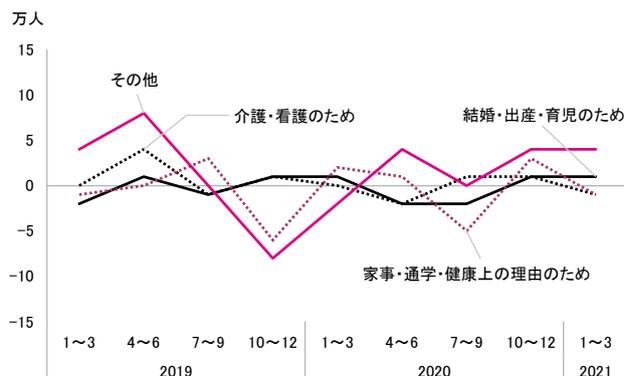


みると、「よりよい条件の仕事を探すため」が22万人で最も多く、次いで「定年又は雇用契約の満了のため」と「家事・通学・健康上の理由のため」がそれぞれ20万人、「会社倒産・事業所閉鎖のため」と「人員整理・勧奨退職のため」がそれぞれ14万人、「事業不振や先行き不安のため」が9万人などとなっている。前年同期増減をみると、「人員整理・勧奨退職のため」が9万人増と最も多く、「会社倒産・事業所閉鎖のため」が7万人増とこれに次いでいる。推移をみると、「人員整理・勧奨退職のため」と「会社倒産・事業所閉鎖のため」は2020年4～6月期以降はおおむね増加傾向にある。

前職の離職理由別離職した失業者①
(対前年同期増減)



前職の離職理由別離職した失業者②
(対前年同期増減)



注1 ①仕事がなく調査週中に少しも仕事をしなかった(就業者ではない)、②仕事があればすぐ就くことができる、③調査週間を含む1か月間に、仕事を探す活動や事業を始める準備をしていた(過去の求職活動の結果を待っている場合を含む)、の3つの条件を満たす者。なお、「失業者」は、完全失業者の求職活動期間(月末1週間)を1か月に拡大したものであり、その他の要件については完全失業者と同様である。

注2 前職のある失業者のうち、前職をやめたことを理由として求職している者。

(調査部 統計解析担当)